



小宮山佳世

勤務先：

株式会社アルファ水工コンサルタンツ
技術部技術5課
〒063-0829 札幌市西区発寒9条14丁目516-336

TEL 011-662-3331

FAX 011-662-3442

E-mail: komiyama@ahec.jp

専門：水産部門（水産土木）

1. 自己紹介

私は東京に生まれ、大学院修了まで東京で育ちました。大学・大学院での専攻は、造園学です。私は幼い頃から、庭園好きの両親に小石川後楽園、新宿御苑、六義園、古河庭園など東京中の庭園に連れて行ってもらっていました。中学校にあがってからは両親と出かけることも少なくなり、庭園から遠ざかっていました。しかし、文学部合格を目指して受験勉強をしていた高校生3年生の秋、図書館で日本庭園の写真集を見て、進路変更をする程の衝撃を受けてしまいました。幼少の時の記憶がよみがえると共に、洗練された美しさに魅了され、突如、日本庭園を造る人になろうと思ったのでした。

急遽進路を変更した高校3年の秋から6年半後の1999年（平成11年）、私は漁港や海岸等海の計画・設計・調査・解析を専門とする株式会社アルファ水工コンサルタンツに入社しました。日本庭園を造る人から、漁港を造る人になったのですが、その経緯については長い話になりますので省略します。モノを造るという深い部分では共通していると思っています。

2. 社会人生活と仕事

単身東京から北海道へ越してきて、私にとって初めての社会人生活が始まりました。家族も親戚もない北の大地で暮らすことに、多少なりとも不安が

ありましたが、幸運にも大学の同期や先輩、後輩が暖かく迎えてくれたため、不安どころか楽しい社会人生活となりました。

仕事の方では、庭園や都市公園、自然公園を取り扱う造園という分野から、畑違いの漁港や海岸という分野に慣れるのが大変でした。入社当初に配属されたのは、計画担当部署でした。現地の利用実態調査やヒアリング調査等、現場に出る仕事が多量に多く、体力的に辛かったです。一番辛かった思い出といえば、入社2年目に実施した、厳冬の日本海沿岸の漁港における漁業作業の現地利用実態調査です。東京育ちの私の体には、風雪と寒さが堪え、「これは絶対に凍傷になる！」と思い、身の危険を感じた程でした（結局なんともなかった）。

このように、机上での検討だけではなく、何度も現場に足を運び、実際に現地の状況や施設を見たり、施設を使用している漁業者の方々と話をするという機会を得ることができました。実際に自分の目や耳、肌で確認しながら、漁港や海岸の分野の仕事を覚えていくことができた事は、自分にとって大きなプラスになったと考えています。

3. 水産部門の受験

当社では技術士取得教育に力をいれており、マイペースの私もそろそろ合格しないとまずいなという雰囲気を感じるようになり、本年度の合格を決意しました。決意したわりには、終盤に詰め込んだという形になってしまいました。技術士第一次試験の専門分野の選択問題は、非常に幅広く出題されるので、通常の業務から少々離れたことまでも勉強が出来て、良かったと思います。

4. 今後に向けて

現在では、GISを使って漁港や海岸の管理の効率化を検討する仕事に携わっています。仕事の内容が多様化する中で、自分の専門分野の知見を深めながらも、幅広い仕事に対応できるよう、柔軟な姿勢を大切にしていきたいと思っています。